

今週の為替相場見通し(2017年12月11日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		111.99 ~ 113.59	113.49	112.00 ~ 115.50
ユーロ	(ドル)		1.1730 ~ 1.1897	1.1775	1.1600 ~ 1.2000
(1ユーロ=)	(円)		132.26 ~ 134.05	133.52	131.00 ~ 135.00
英ポンド	(ドル)		1.3320 ~ 1.3538	1.3381	1.3250 ~ 1.3450
(1英ポンド=)	(円)	*	149.76 ~ 153.41	152.03	150.00 ~ 153.00
豪ドル	(ドル)		0.7501 ~ 0.7654	0.7512	0.7350 ~ 0.7650
(1豪ドル=)	(円)	*	84.67 ~ 86.20	85.21	85.00 ~ 87.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替市場第一チーム 和地 淳史

(1) 今週の予想レンジ: 112.00 ~ 115.50 円

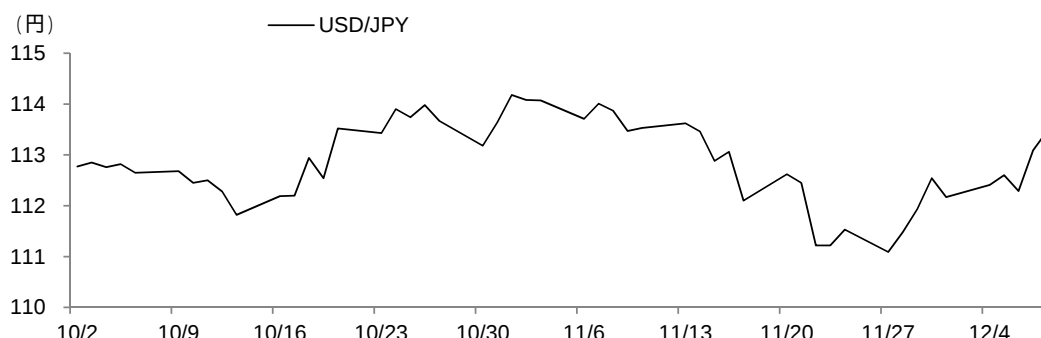
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は底堅い展開となった。週初4日に112円台前半でオープンしたドル/円は、先週末の米上院における税制改革法案可決が好感され112円台後半まで上昇。さらに英国のEU離脱交渉進展に対する期待が高まると113円を上回った。しかし、この水準では売り意欲が強く、また日本の防衛省がミサイルへの迎撃能力を向上させるとの報道が伝わったことで円買いが強まったため、112円台前半まで下落。5日は米金利上昇とともに112円台後半まで反発する場面も見られたものの、米11月ISM非製造業景気指数が予想を下回ったことを受けて、112円台前半まで押し戻された。6日は、トランプ米大統領がエルサレムをイスラエルの首都として正式に認める方針が伝えられると中東情勢悪化を懸念する向きから日経平均株価は一時前日比500円超の急落。英外相がこれに懸念を表明したことなどもこの流れをサポートし、ドル/円相場は一時週安値となる111.99円まで値を下げた。しかし、7日は日経平均株価が大きく買い戻されたことに加えて、押し目買いの動きも強く、112円台前半まで反発。更に、英国とアイルランドがEU離脱後の国境問題について合意が近いとの報道を受け、ポンド/円が買われる動きにドル/円は113円台前半まで連れ高となった。8日には、暫定予算が期限を迎える前に期限を22日まで延長するつなぎ予算案が米上下両院で可決したことで、債務上限にかかる不透明感が後退し一時週高値となる113.59円まで上昇。注目の米11月雇用統計では前回分の下方修正や賃金が予想程上昇しなかったことが嫌気されて113円前半まで反落するも、株式市場が上昇する展開に下げ幅を縮小した。その後は113円台半ばで底堅い動きが続き、113.49円で越週した。

今週のドル/円は底堅い展開を予想する。金価格やボラティリティが低下する等、市場全体の不透明感が後退する中、米つなぎ予算成立などポジティブな材料が続いている。適度に調整もはさみながらの上昇となっているため、過熱感を感じられない状況。シーズナリティとしての株高も期待される中、多少の米経済指標下振れには利上げペースが緩やかになるとの見方から株高で反応する場面もみられており、リスクオンの動きが続く可能性が高い。更に、ドルは軟調なコモディティ通貨売り等にもサポートされている状況。13日(水)には米FOMCでイエレンFRB議長の会見が予定されているが、サプライズな内容となる可能性は低く、現状の流れが続くか。ただし、高値圏では本邦輸出勢やオプション勢の売りも見られるため、上昇ペースは引き続きゆっくりとしたものになろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/4~12/8)の値動き: 安値 111.99 円 高値 113.59 円 終値 113.49 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.1600 ~ 1.2000 131.00 ~ 135.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は軟調な展開。週初4日、オープン直後に週高値となる1.1897をつけたユーロ/ドルは、バルニエEU首席交渉官が英国のEU離脱交渉進展を見込んでいるとの発言を手掛かりにユーロ売り債券買い圧力が強まる展開に1.18台前半まで下落した。5日は1.18台後半まで買い戻されたが、米金利上昇を受けてドル買い優勢地合いとなり、1.18台前半まで反落。さらに、ユーロ/円が下落する動きに連れ1.18近辺まで続落となったが、その後は米金利上昇が一服したことから小幅に値を戻す展開。6日は英国のデービスEU離脱担当相が「英政府は離脱の影響を評価せずに離脱の決定を下していた」と発言したことや、英民主統一党(DUP)がアイルランド国境問題で今週中の合意を見込んでいないと報じられたことからユーロ買い債券売りの流れとなり、ユーロ/ドルは1.18台前半を回復。だが、債券売りが一巡した後はじり安の展開となり、1.17台後半まで反落。7日は1.18近辺まで買い戻されたが、独10月鉱工業生産指数の予想を下回る結果などを背景に上値が重い地合いとなり、その後はEU離脱交渉にかかる報道が散見されたものの、ユーロ/ドルの反応は限定的となった。8日も米11月雇用統計を控え、方向感を見出し難いムードの中、1.17台後半の週安値圏で推移。米雇用統計については強弱まちまちの材料となり市場の反応は限定的となる中、週末を控え引けにかけてユーロは上昇し、結局1.1775で越週した。

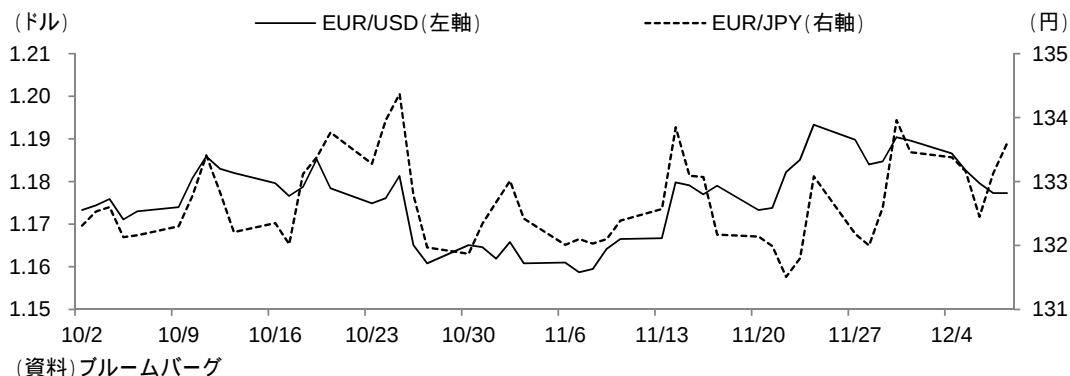
今週のユーロは、レンジ相場を基本としつつも上昇サイドを予想する。足許ユーロは下落しているものの、欧州各国の経済指標は総じて良好であり、域内の景気回復は継続していることや、欧州政治問題についても落ち着いていることから、下げ止まったところでは買いが入ってくるのではないかと想定している。今週の注目材料は14日(木)のECB政策理事会であるが、基本的にはノンイベントを想定しているものの、原油価格が上昇している中、インフレ見通しが上方修正される可能性があることや、先日メルシュECB専務理事が、景気回復によって必要性がなくなるため資産買い入れプログラムの終了を計画し始めるべきとの見解を示すなど、タカ派寄りな内容となる可能性もある。上値のポイントとしては、節目となる1.20。このレベルを超えて上昇する際には、ECB高官等から通貨高に懸念を示すかどうかのポイントとなるであろう。一方、米税制改革の前進等を背景にドル買いが進行する場合、ECB政策理事会においてハト派にふれる場合等については、投機筋のポジショニングで大幅なユーロロングとなる中、ポジションのアンワイドを伴ってユーロ安が進行する可能性もある。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/4~12/8)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1730 高値 1.1897 終値 1.1775

(対円) 安値 132.26 高値 134.05 終値 133.52



3. 英ポンド

(1) 今週の予想レンジ: 1.3250 ~ 1.3450 150.00 ~ 153.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対円、対ユーロで概ね横這い、対ドルでは若干水準を切り下げた。値動きの大半は週の後半に観察されたが、金融市場全般に値動きはちぐはぐで、明確な要因を特定するのは難しかった。英のEU離脱を巡る交渉がポンドに影響したのは間違いない。14・15日のEUサミットを前に、(交渉を次の段階に進めるための)合意に「自信がある」としたメイ英首相の楽観を共有したのか、週明け4日はポンド上昇が先行。しかし、同日中に交渉の決裂が報じられるとポンドは反落。貿易交渉など離脱後のEUと英の関係を規定する交渉を開始するのに必要とされた3項目のうち、アイルランド/北アイルランドの国境問題で合意を引き出せなかったとのこと。その後、8日欧州時間早朝までの再交渉で、EUと英は以上の3項目の交渉で「十分な進展を見せた」との見解で一致。今週のEUサミットで正式に交渉の次の段階への移行が決定される運びとなった。この結果を歓迎してポンドは一時上昇したが、週引けを待たずに早々に反落した。他に金融市場で材料視されたのは、トランプ米大統領が「エルサレムをイスラエルの首都と認める」と述べた6日の発表。中東の地政学的リスクの高まりが警戒され、リスク回避の流れから世界的な株安、円高などが進んだ。この局面のポンド下落はポンド/円の下落が主導したと言えただろう。週を振り返って、主要通貨の中ではドルが頭ひとつ抜きん出たが、その要因もはっきりしなかった。8日の米11月雇用統計も、非農業部門雇用者数の増加は市場予想を上振れた一方、平均時給の伸びは予想を下回りと交錯した内容。注目を集めた割に市場の反応はほとんど読み取れなかった。

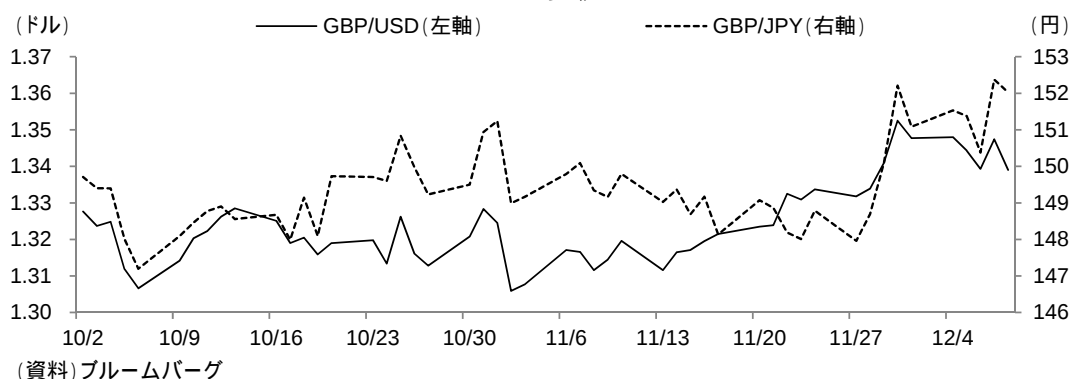
今週の英ポンド相場は、方向感を欠いた膠着を中心に、仮に値幅が出るならポンド安方向を予想。先週の金融市場は全般に整合性を欠き、通常以上に困惑しているように見えた。上述エルサレムを巡る問題で中東の地政学的リスクを警戒しながら、並行して原油価格が下押ししたのは腑に落ちない反応だった。その後、米ガソリン在庫の急増など(原油在庫の減少幅は市場予想よりも大きかったと言うが)を要因に原油は更に大きく水準を切り下げたが、7日以降、ナイジェリア石油業界のストを巡る懸念などを材料に急反発と乱高下を見せた。全般的なドル堅調の背景に、引き続き米利上げ観測や米税制改革法案の成立見通しが好感されたとの見方もあったが、その点に関しこの間特段の進展はなかったし、減税を好感したと言う割に、並行して米株はむしろ水準を切り下げている。敢えてポンド安方向を警戒するのは、先週引け間際のポンド反落に市場の危機感を読み取るから。貿易交渉など将来協定や、移行期間中の関係を規定する移行期間協定などの交渉が漸く開始される目途が立ったのは、英、EU双方の経済的観点から歓迎されるべきことだろう。ただし、交渉が次の段階に移行するのは、次の段階を始めるのに十分な進展があったとの見解が一致しただけのことで、8か月以上もの時間を要して、ほとんど何ひとつ合意できていない事実を意味する。また、今般の交渉で英が支払を約束した離脱金は350億~390億ポンドと観測され、英離脱派の大半から見れば「法外な金額」に上った。双方の歩み寄りが必要なのは交渉の常だが、ほんの僅かな進展を得るために英が示さなければならなかった妥協の大きさを鑑みると、今後の交渉で求められるであろう更なる妥協を、英が到底受け容れられないような展開は大いに警戒されるだろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/4~12/8)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3320 高値 1.3538 終値 1.3381

(対円) 安値 149.76 高値 153.41 終値 152.03



4. 豪ドル

為替営業第二チーム 橋 雄史

(1) 今週の予想レンジ: 0.7350 ~ 0.7650 85.00 ~ 87.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は軟調な展開。週初4日の豪ドルは、対ドルで0.76台丁度近辺にてオープン。前週末の米上院での税制法案改革可決報道を受けて米株式市場が上昇し、ドルが全般的に買われる展開となったが、豪ドル相場の反応は限定的で、0.76を挟んで小幅推移。5日は豪10月小売売上高が予想比好調な結果となり、豪ドルは上昇。その後発表された豪州準備銀行(RBA)理事会では、政策金利が予想通り1.50%に据置かれた。声明文では「政策金利据置きは成長・インフレ目標に整合的と判断。豪ドルの上昇は経済と物価を鈍化させる。豪ドルは引続き過去2年間のレンジで推移。労働市場の改善でいずれ賃金の伸びが上向く見通し」等の発言が見られ、発表直後は週高値0.7654まで上昇した。6日は豪7~9月期GDPの結果が予想より若干弱い結果となり、0.75台後半まで下落。7日は豪10月貿易収支が予想を下回ったことで一時0.7510まで下落し、8日も豪ドル売り優勢の展開の中で週安値0.7501まで値を下げた。その後は、米11月雇用統計を受けて小幅反発するも、引けにかけては軟調に推移し、安値圏となる0.75台前半で越週した。一方、対円は、週初4日に85円台半ばでオープン。週明けはドル/円の上昇につれて86円台目前まで上昇する場面も見られたが、その後は失速し85円台半ばまで値を戻す。5日は豪ドルの上昇を受けて週高値86.20円まで上昇したが、積極的に上値を追う展開とはならず、上げ幅は限定的。6日はトランプ米大統領がエルサレムをイスラエルの首都と認めると正式に発表したことで中東リスクの高まりが意識され、リスクセンチメントの後退から豪ドル/円は84円台後半まで下落。7日は豪ドルの下落とドル/円の上昇に相殺されて85円台での横ばい推移となったが、海外時間にドル買いが強まる中で週安値84.67円をつけた。8日はドル/円上昇に連れ高となり85円台を回復したが、上値は限定的で、結局85円台前半で越週した。

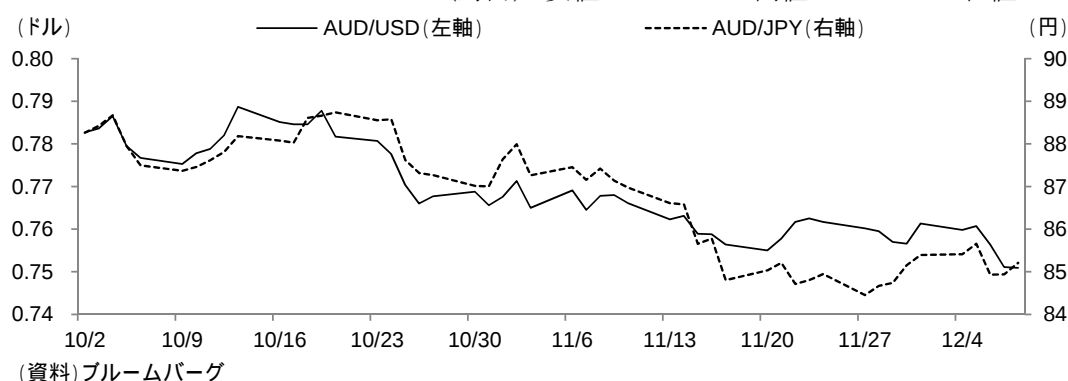
今週の豪ドル相場は軟調推移を予想する。先週発表されたRBAの声明文や7~9月期GDPの結果を受け、豪ドル相場は軟調地合いが継続している。GDPの内訳では総固定資本投資が好調となった一方、個人消費の伸びが2008年以来の最低水準となり、賃金上昇率の伸び悩みや住宅ローンなどによる家計債務の圧迫が豪経済の成長の重しとなっている印象を感じさせる。今週は国内外で重要イベントが多く、国内では12日(火)に11月NAB企業信頼感指数と景況感指数、14日(木)には11月雇用統計が発表される。そのほか、13日(水)にはロウRBA総裁の講演が予定されている。国外では14日(木)に中国11月小売売上高・固定資産投資の発表があるほか、同日に米国ではFOMCの政策発表が予定されている。足許では豪ドルをサポートする材料に乏しく、経済指標結果次第ではあるものの、節目の0.75を明確に割り込んだ際には、値幅を伴った下落にも注意しておきたい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(12/4~12/8)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7501 高値 0.7654 終値 0.7512

(対円) 安値 84.67 高値 86.20 終値 85.21



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。